

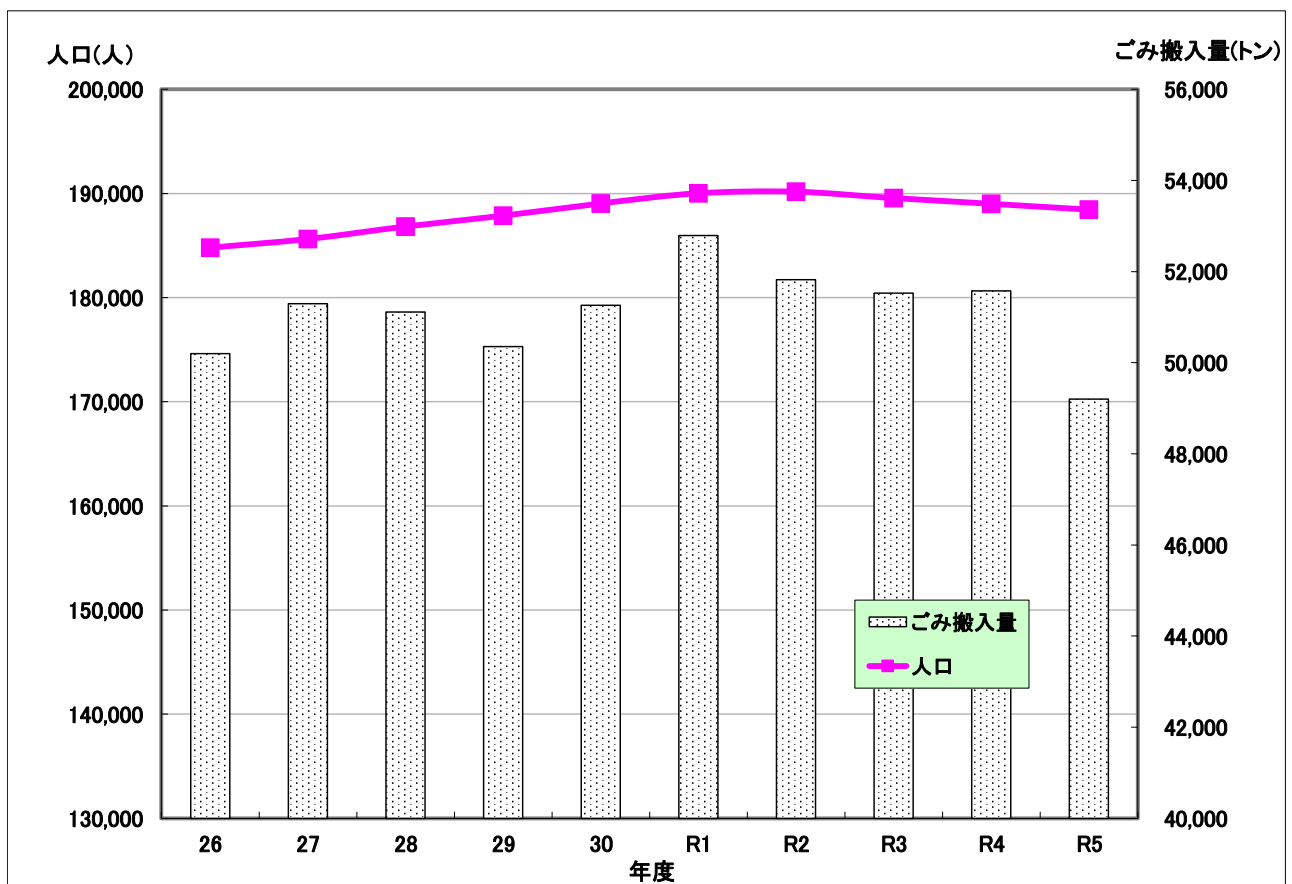
令和５年度 環境クリーンセンター管理報告

環境クリーンセンター故障及び火災・事故一覧表

施設名	故障	火災・事故	備考
ごみ焼却施設	0件	0件	
し尿処理施設	0件	0件	

ごみ搬入量と人口の推移

人口増に伴い搬入される可燃ごみも増加傾向にありましたが、令和元年度をピークに減少傾向に転じています。



年 度	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5
ごみ搬入量 (トン)	50,198	51,294	51,110	50,355	51,258	52,791	51,822	51,527	51,575	49,204
人 口 (人)	184,780	185,615	186,806	187,860	189,031	190,007	190,155	189,543	188,999	188,456

※ 表中の人口については、１０月１日現在の人口です。

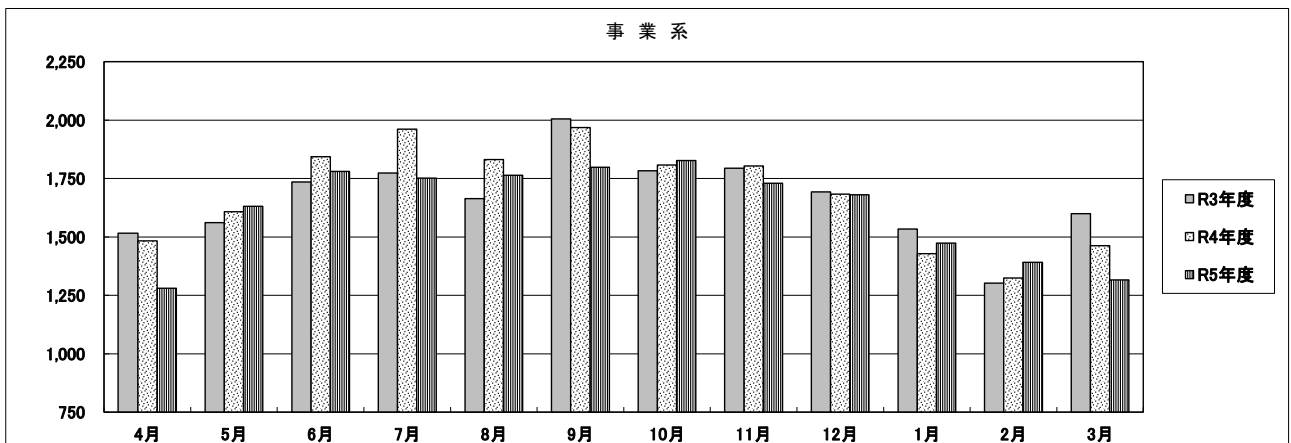
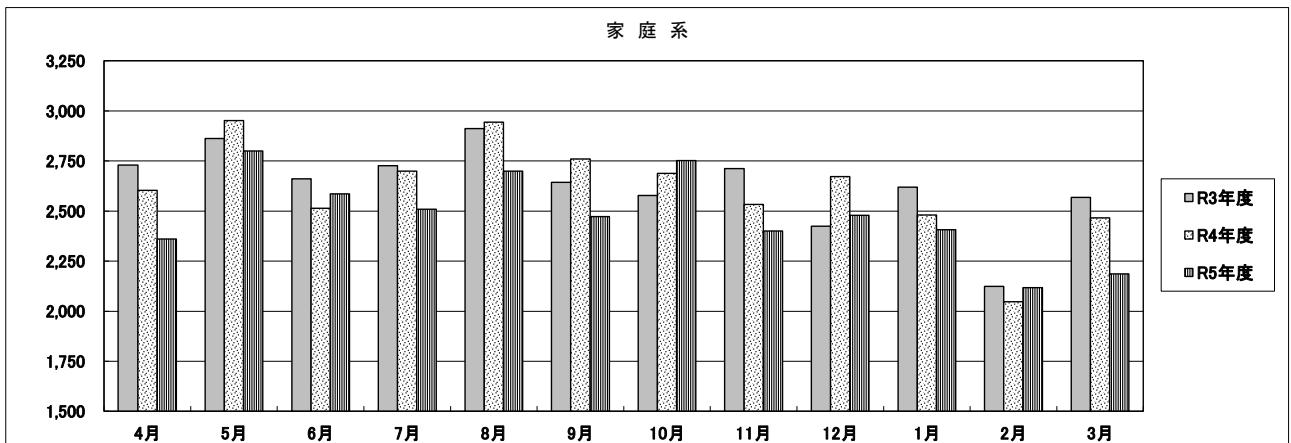
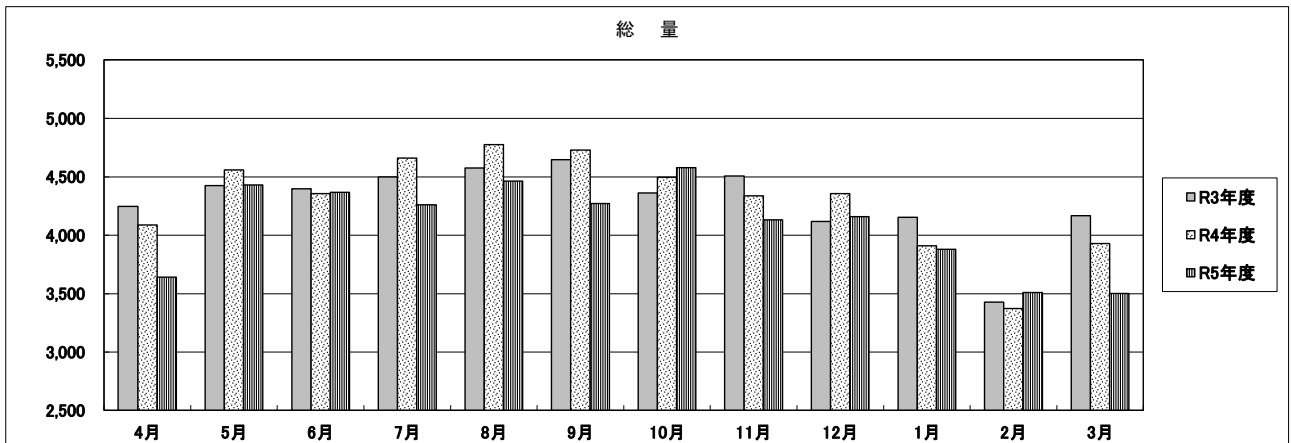
施設の変遷

- ・平成９年３月完成 処理能力２４０トン／日（１２０トン／日×２）
- ・平成２５年３月～平成２７年３月 基幹的設備改良工事実施

可燃ごみの月別搬入実績

単位：トン

利用目的	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総量	R3年度	4,246	4,425	4,397	4,500	4,577	4,648	4,361	4,507	4,117	4,153	3,427	4,169	51,527
	R4年度	4,087	4,560	4,358	4,662	4,776	4,730	4,497	4,337	4,356	3,910	3,373	3,929	51,575
	R5年度	3,642	4,431	4,367	4,262	4,465	4,272	4,580	4,131	4,160	3,881	3,510	3,503	49,204
家庭系	R3年度	2,730	2,863	2,662	2,726	2,913	2,643	2,578	2,712	2,424	2,619	2,124	2,569	31,563
	R4年度	2,604	2,952	2,514	2,700	2,944	2,761	2,689	2,533	2,673	2,481	2,048	2,466	31,365
	R5年度	2,361	2,800	2,586	2,510	2,700	2,473	2,752	2,401	2,479	2,407	2,118	2,187	29,774
事業系	R3年度	1,516	1,562	1,735	1,774	1,664	2,005	1,783	1,795	1,693	1,534	1,303	1,600	19,964
	R4年度	1,483	1,608	1,844	1,962	1,832	1,969	1,808	1,804	1,683	1,429	1,325	1,463	20,210
	R5年度	1,281	1,631	1,781	1,752	1,765	1,799	1,828	1,730	1,681	1,474	1,392	1,316	19,430



ごみ焼却運転状況

単位：日

	R 3 年度			R 4 年度			R 5 年度		
	運転日	休炉日	2 炉焚	運転日	休炉日	2 炉焚	運転日	休炉日	2 炉焚
4 月	30	0	0	30	0	0	30	0	0
5 月	31	0	15	31	0	13	31	0	11
6 月	30	0	6	30	0	3	30	0	1
7 月	31	0	10	31	0	11	31	0	3
8 月	31	0	31	31	0	31	31	0	31
9 月	30	0	3	30	0	1	30	0	0
1 0 月	21	10	15	19	12	16	17	14	17
1 1 月	30	0	7	30	0	7	30	0	6
1 2 月	31	0	13	31	0	14	31	0	14
1 月	31	0	9	31	0	2	31	0	8
2 月	28	0	0	28	0	0	29	0	0
3 月	31	0	15	31	0	18	31	0	2
計	355	10	124	353	12	116	352	14	93
搬入量	51,527 トン／年			51,575 トン／年			49,204 トン／年		

※例年 1 0 月は点検整備のため 1 0 日間程度休止します。

余熱利用状況

蒸気量

単位：トン

R 3 年度				R 4 年度				R 5 年度			
プラント設備	発電機	建築設備	場外余熱	プラント設備	発電機	建築設備	場外余熱	プラント設備	発電機	建築設備	場外余熱
61,073	99,620	833	8,606	60,044	98,529	924	7,613	53,570	97,764	839	6,762
170,132				167,110				158,935			

※プラント設備は、燃焼用空気予熱器、スートブロワなどのプラント稼動に使用した蒸気量

※発電機は、発電用として蒸気タービンで使用した蒸気量

※建築設備は、場内で温水などに使用した蒸気量

※場外余熱は、マーメイドパレスへ送った蒸気量

電力量

単位：kWh

R 3 年度			R 4 年度			R 5 年度		
発電量	買電	売電	発電量	買電	売電	発電量	買電	売電
14,140,910	207,122	6,725,642	13,995,400	237,060	6,795,172	13,853,490	188,938	6,554,099

ごみ焼却施設 排ガス測定結果

ごみ焼却施設では大気汚染防止法及びダイオキシン類対策特別措置法に基づき、排ガスの測定を行い、施設の適正管理を行っています。

下記の表は令和5年度における、ごみ焼却施設から放出される排ガスの測定結果です。

(ごみ焼却施設)

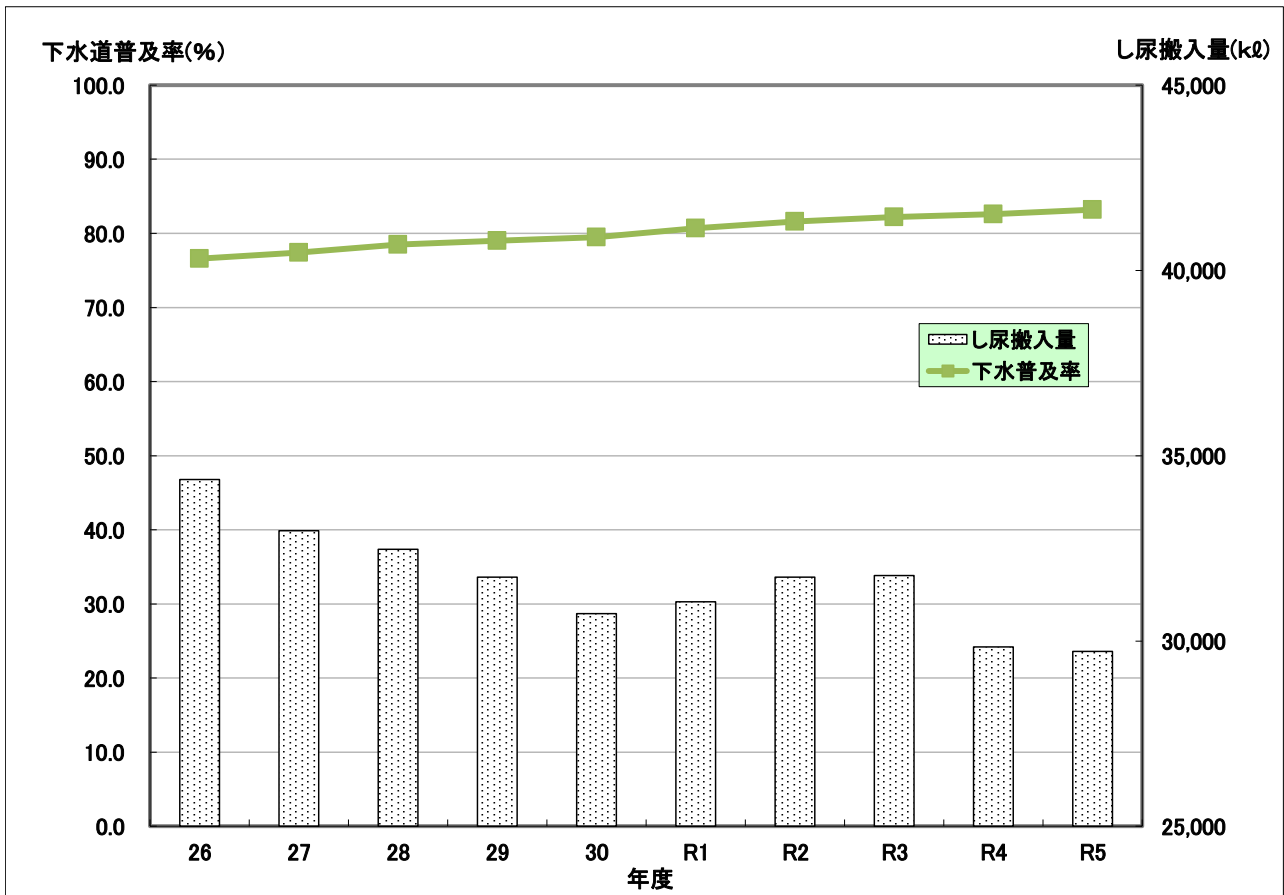
検体採取日	測定対象 焼却炉	ばいじん g/Nm3	塩化水素 PPM	硫黄酸化物 PPM	窒素酸化物 PPM	全水銀 μg/Nm3	ダイオキシン類 ngTEQ/Nm3	検査結果
R5. 4. 26	2号炉	<0.001	2	11	28	2.8	----	○
R5. 6. 21	1号炉	<0.001	4	10	30	7.8	----	○
R5. 8. 18	1号炉	<0.001	<1	4	22	----	----	○
R5. 8. 18	2号炉	<0.001	1	6	14	----	----	○
R5. 8. 29	1号炉	----	----	----	----	----	0.000035	○
R5. 8. 29	2号炉	----	----	----	----	----	0.000005	○
R5. 10. 18	2号炉	<0.002	17	12	31	5.2	----	○
R5. 11. 15	1号炉	<0.001	1	4	31	----	----	○
R5. 12. 20	1号炉	<0.002	5	12	24	4.9	----	○
R5. 12. 20	2号炉	<0.002	5	9	28	----	----	○
R6. 2. 14	1号炉	<0.002	15	9	50	----	----	○
R6. 3. 13	1号炉	0.002	3	3	40	----	----	○
自主基準値		0.02	80	80	80	----	0.1	----
法規制値等		0.08	430	173	250	50	1	----

用語の説明

ばいじん	「ばい煙」のひとつで、すすや燃えかすの固体粒子状物質のことをいう（煤塵）。大気汚染防止法（1968）の第2条第1項第2号では「燃料その他の物の燃焼又は熱源としての電気の使用に伴い発生する」と定義している。無機物質、有機物質、各種金属等が含まれる。同法では、ばいじんを排出する26種類の施設からのばいじんの排出を燃料の種類、施設の大きさに応じて規制している。燃焼以外から発生する固体粒子は、法的には「粉じん」として区別する。
塩化水素	無色の刺激臭の強い気体で、水に溶解したものが塩酸である。金属溶解性が強く腐食性物質である。大気中には塩化ビニールの燃焼等に伴い放出される。
硫黄酸化物	二酸化硫黄（SO ₂ 、亜硫酸ガスともいう。）、三酸化硫黄（SO ₃ 、無水硫酸ともいう。）などの硫黄の酸化物の総称で、燃料中の硫黄分の燃焼等に伴い発生する。硫黄酸化物は、それ自体有害であるし、環境大気中では他の汚染物質と共存することによって人間や動植物に影響を与える。特に環境での人間に対する影響としては、いわゆる「ぜんそく」を引き起こす等呼吸器への影響が顕著である。
窒素酸化物	物の燃焼の際、空気中に含まれる酸素と窒素から発生する。高温になるほどその発生量は多くなる。また燃料の成分中の窒素分も燃焼の際、窒素酸化物になる。エネルギーの消費に伴い年々環境濃度は高まっており、その主な発生源は工場と自動車である。窒素酸化物の代表的なものは一酸化窒素（NO）と二酸化窒素（NO ₂ ）で、人間に対する影響としては肺気腫等の原因となる。
ダイオキシン類	ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルをまとめてダイオキシン類という。無色無臭の固体で水に溶けにくく、油などに溶けやすい。物の燃焼に伴い非意図的に生成し、廃棄物焼却炉などから排出される。
全水銀	排ガス中に気体として存在する水銀及びその化合物であるガス状水銀と排ガス中のダストに含まれる水銀及びその化合物である粒子状水銀を合計したもの。人への毒性が強く、特に発達途上（胎児、新生児、小児）の神経系に有害である。また、食物連鎖により野生生物へも悪影響を与える。

し尿搬入量と下水道普及率の推移

し尿処理施設に搬入されるし尿（生し尿・浄化槽汚泥）は、商業施設での浄化槽トラブルや大規模工事等による仮設トイレ等での状況によって増加する年度もありましたが、令和４年度には従来の減少傾向の数値に戻りました。



年 度	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5
し尿搬入量 (kL)	34,360	32,973	32,475	31,724	30,740	31,058	31,723	31,767	29,841	29,722
人 口 (人)	184,780	185,615	186,806	187,860	189,031	190,007	190,155	189,543	188,999	188,456
下水道普及率 (%)	76.6	77.4	78.5	79.0	79.5	80.7	81.6	82.2	82.6	83.2

※ 表中の人口については、１０月１日現在の人口です。

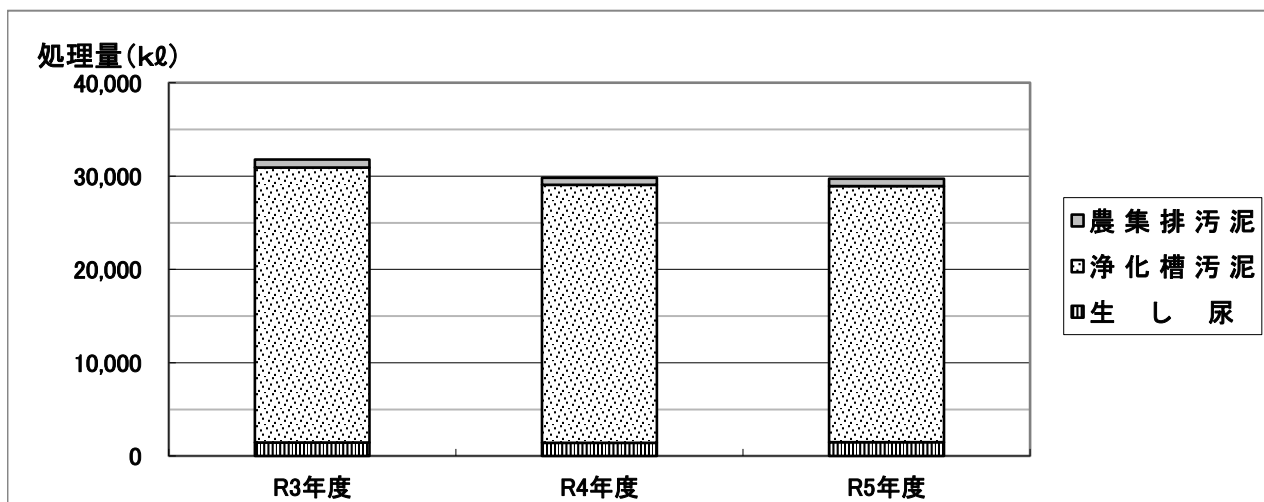
施設の変遷

- ・昭和６２年３月完成 処理能力１８０ｋＬ／日（河川放流）
- ・平成２７年６月～平成２９年２月 し尿処理施設改修整備工事実施 処理能力１０２ｋＬ／日（下水道放流）

し尿処理施設搬入量実績

単位：kℓ

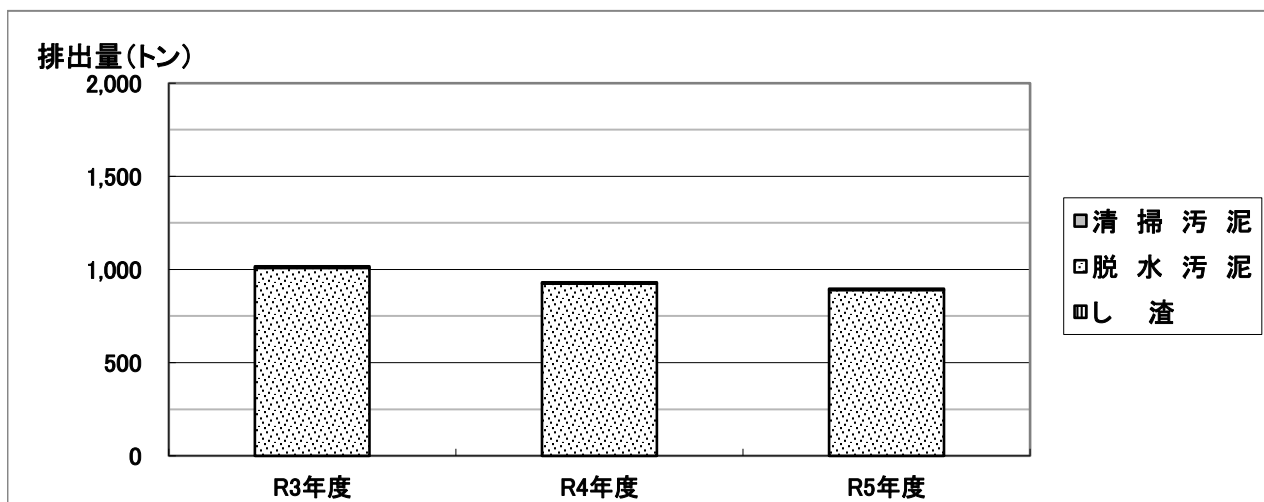
	R3年度	R4年度	R5年度
生し尿	1,466	1,410	1,477
浄化槽汚泥	29,459	27,650	27,459
農集排汚泥	841	781	786
合計	31,766	29,841	29,722
浄化槽汚泥割合(%)	92.7	92.7	92.4



し尿処理施設搬出汚泥量実績

単位：トン

	R3年度	R4年度	R5年度
し渣	0.54	0.45	0.53
脱水汚泥	1,008.11	923.54	889.25
清掃汚泥	8.39	7.91	6.37
合計	1,017.04	931.90	896.15



放流水水質検査結果

し尿処理施設では水質汚濁防止法に基づき、放流水の水質測定を行い、施設の適正管理に努めています。

下の表は令和5年度における、し尿処理施設から下水道へ排出される放流水の水質検査結果です。

(し尿処理施設)

検体採水日	p H	温度 ℃	B O D mg／ℓ	S S mg／ℓ	窒素 含有量 mg／ℓ	燐 含有量 mg／ℓ	ノルマルヘキサン 抽出物質含有量		ヨウ素 消費量 mg／ℓ	難分解性 C O D mg／ℓ	検査結果
							鉱物類 mg／ℓ	動植物 油脂類 mg／ℓ			
R5.4.19	7.8	21.6	4.0	9.0	9.9	0.21	<0.5	<0.5	6.0	6.0	○
R5.5.17	7.8	24.0	4.4	19.0	18.0	0.32	<0.5	<0.5	5.0	6.0	○
R5.6.14	7.7	24.5	2.6	8.0	12.0	0.23	<0.5	<0.5	4.0	6.0	○
R5.7.12	7.9	28.5	6.0	14.0	16.0	0.59	<0.5	<0.5	3.0	8.0	○
R5.8.2	7.8	30.3	6.8	24.0	11.0	0.80	<0.5	<0.5	4.0	7.8	○
R5.9.13	7.8	28.5	3.2	23.0	25.0	0.64	<0.5	<0.5	6.0	6.0	○
R5.10.11	7.6	25.5	2.6	21.0	16.0	0.46	<0.5	<0.5	3.0	5.8	○
R5.11.8	7.2	24.0	5.5	17.0	29.0	0.23	<0.5	<0.5	5.0	4.6	○
R5.12.6	7.5	19.5	3.6	20.0	29.0	0.14	<0.5	<0.5	3.0	4.4	○
R6.1.10	7.4	16.0	20.0	22.0	38.0	0.47	<0.5	<0.5	7.0	5.8	○
R6.2.14	7.6	15.0	27.0	32.0	45.0	0.35	<0.5	<0.5	6.0	13.0	○
R6.3.6	7.4	17.0	73.0	21.0	29.0	0.30	<0.5	<0.5	4.0	7.9	○
法規制値等	5.0～9.0	45	600	600	240	32	5	30	220	25	

※この水質検査結果は、安城市下水道条例及び愛知県維持管理要綱の基準に基づき、毎月1回行われる分析業者による分析結果です。

用語の説明

p H	溶液中の水素イオン濃度を示す尺度で、酸性、アルカリ性の度合を示します。数値が小さくほど酸性、数値が大きいほどアルカリ性の度合が強く、p H 7 が中性です。
B O D	有機物による水の汚濁の程度を示す指標で、水中の汚濁物質が20℃で5日間のうちに微生物により酸化分解される過程で消費される酸素量をmg/l(水1リットル当たり消費される酸素のmg数)で表します。BODが高い(数値が大きい)ことは、その水の中に微生物により分解されやすい有機物が多いことを意味し、これが河川に流入すると、河川の水の中に溶けている酸素(溶存酸素(DO)という。)を多量に消費し、魚介類に被害を及ぼします。
S S	粒径2mm以下の、水に溶けない懸濁性の物質のことをいいます。一定量の水をとってろ過したあと、残留物を乾燥してその重量を測り、それを水中の濃度(水1リットル当たりの重量mg数)で表します。浮遊物質には無機質のものと有機質のものがあり、数値が大きいほど水質汚濁が進んでいることを示します。
窒素含有量	窒素は空気中に約80%含まれる物質でありそれ自体は無害ですが、水中の栄養塩類としては閉鎖性水域の富栄養化の原因となる物質の一つです。水域の栄養塩類は、生活排水、工場排水などにより供給され、藻類などの植物性プランクトンの著しい増殖による赤潮やアオコ、青潮の発生の原因となります。溶存態の無機窒素と有機態窒素及び懸濁態窒素これらすべてを全窒素と呼びます。
燐含有量	窒素とともに、水中の栄養塩類として閉鎖性水域の富栄養化の原因となる物質の一つです。窒素と同様に、溶存態の無機りんと有機態りん及び懸濁性りんに区分され、これら全てを全りんと呼びます。生活排水、工場排水、農業排水などにより閉鎖性水域に供給され、栄養塩類の増加による富栄養化を引き起こします。
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	ノルマルヘキサンという有機溶媒によって抽出される不揮発性物質の総称で、水中に含まれる油分の指標です。海域についてノルマルヘキサン抽出物質として「検出されないこと」と定められています。海域だけでなく陸水域でも、油分、特に鉱物油は石油臭によって水の価値を損なったり、下水処理場の機能を阻害したりします。
ヨウ素消費量	ヨウ素消費量とは、硫化物、第一鉄塩、不安定な有機物の還元性物質によって消費されるヨウ素量です。ヨウ素消費量の高い下水は、反応槽での酸素要求量が多いなります。また、管渠内で酸素を消費するため腐敗を促進し、硫化水素の発生を招き、管渠の腐食・破壊へ導きます。
C O D (参考)	BODと同じように、主として有機物による水の汚濁の程度を示す指標で、水中の汚濁物質を100℃で酸化剤(過マンガン酸カリウム)で酸化するときに消費される酸素量(水1リットル当たり消費される酸素のmg数)で表します。この値が大きいほど汚濁が進んでいることを意味します。
難分解性 C O D	CODとBODはともに水中の有機汚濁指標であるが、測定原理が異なっており、BOD濃度測定では検出されないような物質がCOD濃度測定では検出される場合があり、このような場合の物質は過マンガン酸カリウムで酸化されうる有機物であるが、生物にとっては 難分解性であると考えられることができる。難分解性CODはこうした物質を指します。

ごみ焼却灰処理状況

ごみ焼却量の約 13 %が焼却灰として残ります。

焼却灰の内、約 38 %を再資源化処理し、残りの 62 %は埋立処理を行いました。

令和 5 年度ごみ焼却灰処理状況

単位：トン

月	焼却灰発生量	埋立処理量 (アセック) (グリーンフィル)	再資源化量 (中部リサイクル) (メルテック) (UBE三菱)
4	395.45	85.17	310.28
5	615.50	615.50	0.00
6	494.07	494.07	0.00
7	483.27	483.27	0.00
8	657.66	554.26	103.40
9	568.07	152.53	415.54
10	505.54	485.72	19.82
11	547.53	213.27	334.26
12	571.05	277.35	293.70
1	554.98	134.41	420.57
2	361.99	84.50	277.49
3	441.35	238.73	202.62
計	6,196.46	3,818.78	2,377.68

ごみ焼却灰処理状況の推移

単位：トン

年度	焼却灰発生量	埋立処理量 (アセック) (グリーンフィル小坂)	再資源化量 (中部リサイクル) (メルテック) (UBE三菱) (デンカ)
R 3	6,431.84	4,057.31 63.1%	2,374.53 36.9%
R 4	6,628.97	4,259.38 64.3%	2,369.59 35.7%
R 5	6,196.46	3,818.78 61.6%	2,377.68 38.4%

※アセック：公益財団法人愛知臨海環境整備センター（知多郡武豊町）

※グリーンフィル：グリーンフィル小坂株式会社（民間業者、秋田県鹿角郡小坂町）

※中部リサイクル：中部リサイクル株式会社（民間業者、名古屋市）

※メルテック：メルテックいわき株式会社（民間業者、福島県いわき市）

※UBE三菱：UBE三菱セメント株式会社（民間業者、山口県宇部市）

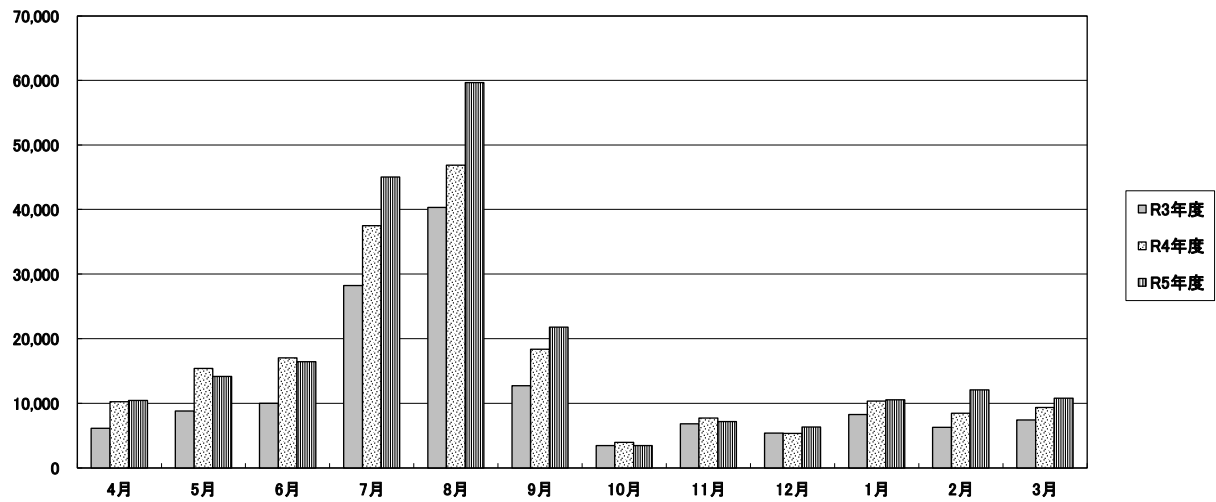
※デンカ：デンカ株式会社（民間業者、新潟県糸魚川市）

マーメイドパレス利用状況

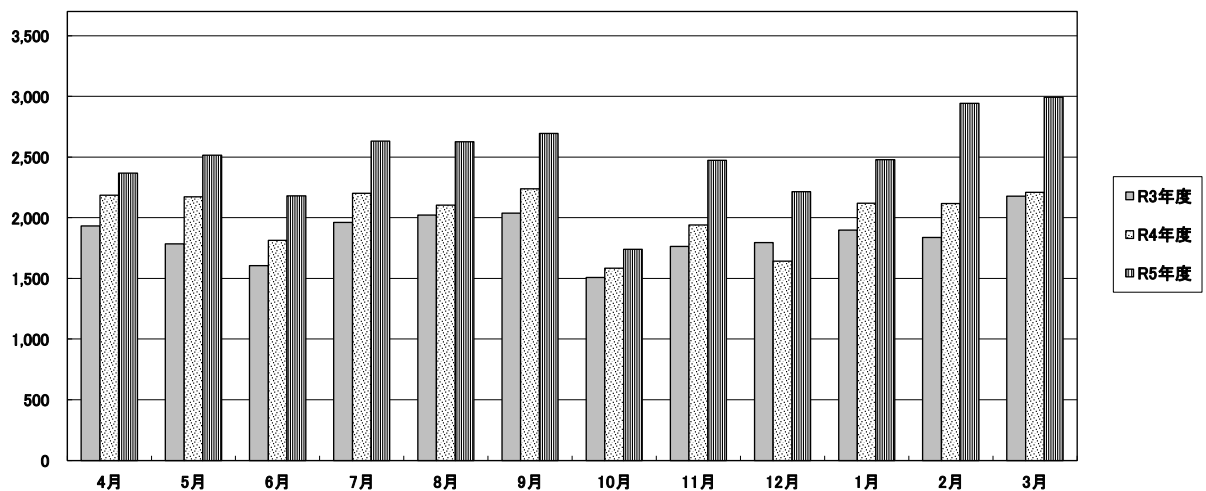
単位：人

利用目的	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プール	R3年度	6,130	8,789	9,971	28,203	40,319	12,699	3,438	6,809	5,350	8,238	6,279	7,412	143,637
	R4年度	10,213	15,364	17,040	37,498	46,839	18,339	3,932	7,684	5,327	10,339	8,455	9,348	190,378
	R5年度	10,429	14,146	16,439	45,008	59,640	21,791	3,422	7,172	6,300	10,547	12,082	10,799	217,775
トレーニング	R3年度	1,932	1,783	1,604	1,960	2,021	2,038	1,506	1,763	1,795	1,898	1,837	2,178	22,315
	R4年度	2,184	2,171	1,812	2,200	2,104	2,237	1,583	1,940	1,643	2,118	2,117	2,209	24,318
	R5年度	2,366	2,515	2,179	2,632	2,626	2,694	1,739	2,472	2,213	2,479	2,941	2,993	29,849
合 計	R3年度	8,062	10,572	11,575	30,163	42,340	14,737	4,944	8,572	7,145	10,136	8,116	9,590	165,952
	R4年度	12,397	17,535	18,852	39,698	48,943	20,576	5,515	9,624	6,970	12,457	10,572	11,557	214,696
	R5年度	12,795	16,661	18,618	47,640	62,266	24,485	5,161	9,644	8,513	13,026	15,023	13,792	247,624

プール利用者



トレーニング利用者



多目的広場・グランドゴルフ場利用状況（人数）

単位：人

利用目的	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
多目的広場	R3年度	362	316	295	96	45	128	128	374	250	316	189	425	2,924
	R4年度	386	440	392	422	286	470	462	311	318	283	365	283	4,418
	R5年度	304	382	359	405	348	519	545	437	385	353	336	413	4,786
グランドゴルフ場	R3年度	89	97	67	119	45	54	96	116	100	92	74	121	1,070
	R4年度	90	112	81	95	78	30	78	43	105	67	64	133	976
	R5年度	77	84	58	69	23	39	56	62	55	38	43	65	669
合 計	R3年度	451	413	362	215	90	182	224	490	350	408	263	546	3,994
	R4年度	476	552	473	517	364	500	540	354	423	350	429	416	5,394
	R5年度	381	466	417	474	371	558	601	499	440	391	379	478	5,455

※多目的広場の7・8月はマーメイドパレスの臨時駐車場として使用することもあります。

